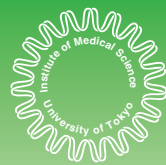


医科研病院だより



第67号

発行：東京大学医科学研究所附属病院

令和7年4月15日

〒108-8639 東京都港区白金台4-6-1

代表電話03-3443-8111

ホームページ <https://www.h.ims.u-tokyo.ac.jp/>

【CONTENTS】 病院長就任に際して思うこと	1
なんでも・ひろば 医科研病院の「えん」	2～3
循環器内科 診療科長就任のご挨拶	4

病院長就任に際して思うこと

病院長 朴 成和



皆さん、こんにちは。令和7年4月より東京大学医科学研究所附属病院（医科研病院）の院長を拝命しました朴成和（ほくなりかず）です。私自身は、消化器がんを中心とした固形がんの抗がん剤治療を専門にしております。これまで、国立がん研究センター東病院（1992年開院）や静岡がんセンター（2002年開院）の2つの病院の開院と聖マリアン

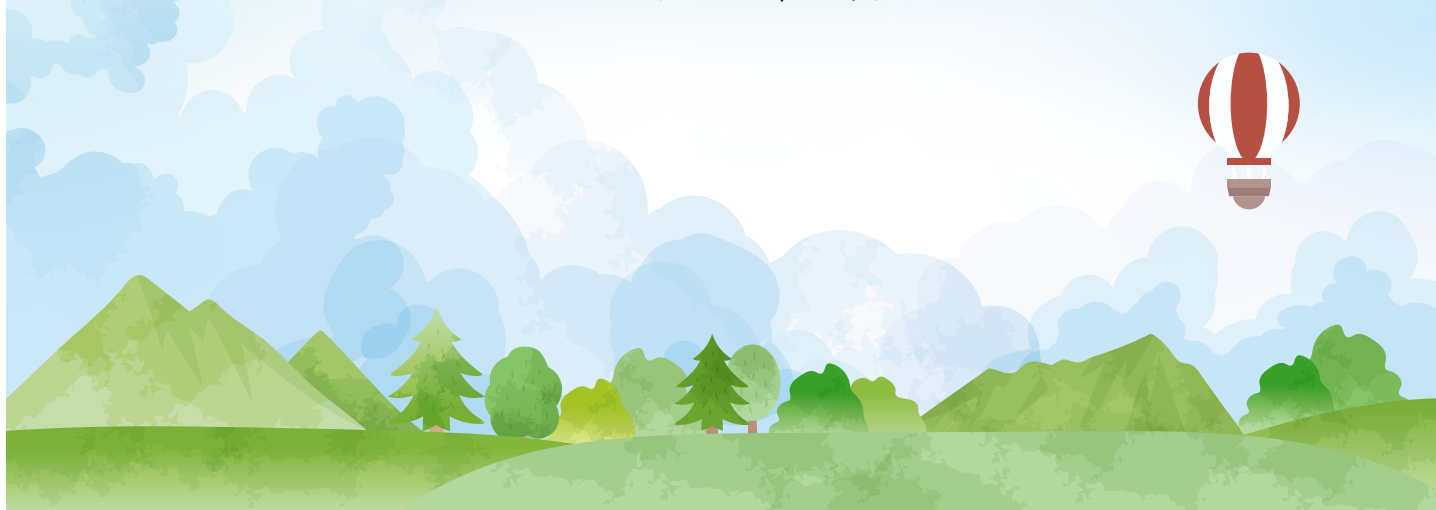
ナ医科大学の腫瘍内科の立ち上げを経験してきました。いずれもゼロからのスタートでしたので、開設時には「いかにして、患者さんに来ていただくか？」が最大の課題でした。その際には、「現状に困っている患者さん」、「近隣の医療施設対応に苦慮している患者さん」に対してどのようにお役にたてるか「自分達の役割」を意識して、医師だけでなく他の医療スタッフを含めて「受診してよかった」「紹介してよかった」と思っていたいただける医療を行うことを心がけてまいりました。同様に、医科研病院も患者さんや近隣の医療施設から「受診してよかった」「紹介してよかった」と思っていたいただける病院にしたいと考えております。その1つとして、診断医、外科、内科および他の医療スタッフは良好な多診療科・多職種連携がとれており、広い視野からそれぞれの専門性を活か（メ

（メ）した役割分担を意識したチーム医療を行っており、総合的な医療を行いたいと考えております。

言うまでもなく、医科研の本来の使命は難病の克服であり、研究的な新規治療を開発・実施することです。現在も、脳腫瘍や体表から薬剤を注入できるがんに対するウイルス治療や、全ゲノムシーケンス（遺伝子検査）など、既存の治療でうまくいかなかった患者さんに対する研究的医療を行っております。また、治験などの新規薬剤の開発だけでなく、研究グループに参加するなど、他施設と共同して既存薬を使ってより効果の期待できる治療の臨床試験も行っております。また、副作用を軽減するための支持療法の臨床試験を立案・開始しております。これからも、医科研病院の本来の使命を忘れることなく、疾患や病態に応じた最新の医療を受けていただくことができるように努力したいと思っております。

さらには、このような研究的なマインドは、日常診療においても「今よりも、少しでもいい医療を行い、患者さんをよくしてさし上げたい」という思いにつながっており、個々の患者さんの様々な問題に対して、個別に工夫を考案・提供するように努力していると自負しております。受診していただいた患者さんの困っていらっしゃることも満たされていない要望（Unmet Needs）を少しでも解決できるように努めて行きたいと思っております。

医科研病院に行けば、「色々考えてくれて、いいことをしてもらえそう」と期待していただき、何でも気軽にご相談していただければ幸いです。

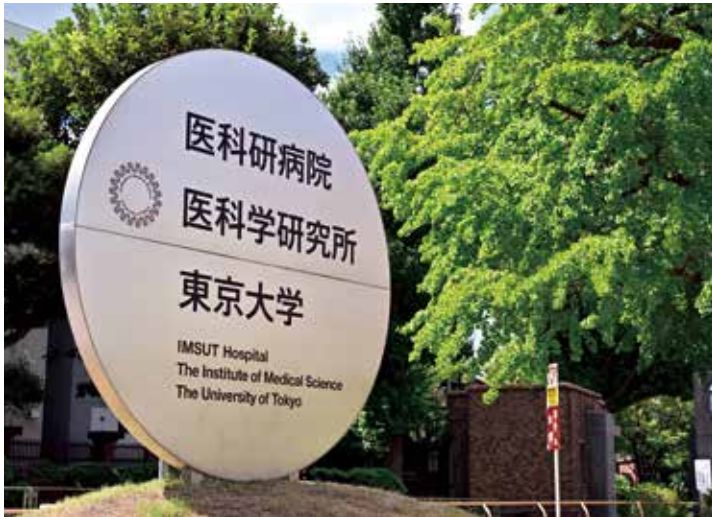


なんでも・ひろば



医科学研究所の「えん」

医科学研究所(医科研)では、正門前の目黒通りに面して円形の大きな看板を設置しています。(ア)



この円形の看板には、次の三つの思いが込められています。

- ①円形は地球を意味し、医科研が世界の頂点を目指す決意を表現しています。
- ②円形は日本語で「わ」と言います。つまり「和」そして「絆」を意味しております。世界の頂点に立つためには、研究所と病院の卓越した個の力の結集が不可欠です。(ア)



正門から医科研敷地内に入られてから医科研病院までは、少し歩いていただくことになります。正面に見える歴史あるレンガ造りの建物(1号館)の向こうに建つビルが医科研病院の診療棟です。

1号館の前の植え込みには「源平咲き」のハナモモが植えられています。春には赤、白、ピンクと、ひとつの木から複数の色の花 (ア)

(イ) 地下鉄でお越しになられる方は、白金台駅・2番出口を出て右手にこの看板が目に入りますので、迷うことなく正門から医科研に入っていただけたと思います。医科研の敷地内を、東京大学学内では「白金キャンパス」と呼んでいます。



(イ)

- ③医科研病院が表記の一番上にあります。これは医科研の原点は「真理探究に基づく実学、つまり病気から学びそしてそれを予防・治療として医療に戻す」であり、その視点から研究所と病院の一体化の益々の重要性を常に念頭に、日々の医科学研究を推進することを願ひまして、その思いを込めたものとなっています。



(イ)で彩られ、「多様性を包摂する社会の実現」を目指す現在の東京大学の姿に例えられることもしばしばです。

医科研病院へは時計台下の入口から、または右側に進み東側の入口に入り、1号館の中を通り抜けて向かっていただくことになります。



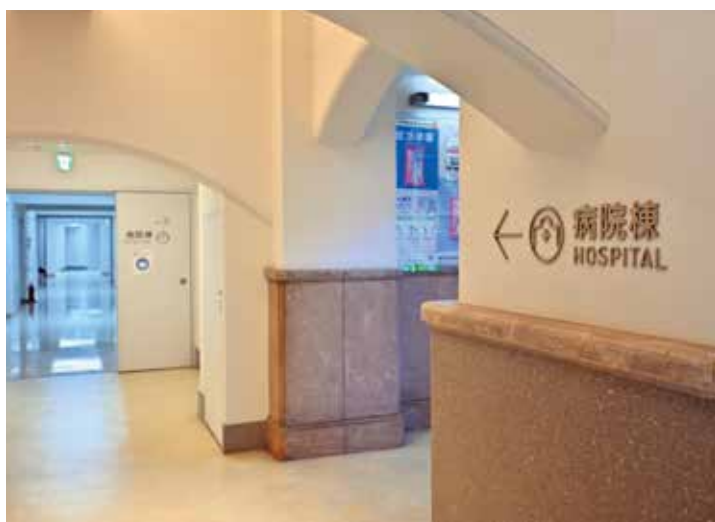
1号館東側入口の車寄せの天井部分は、3つ並んだ美しいステンドグラスで彩られています。このステンドグラスは、医科研病院で大きな手術を受け、その後社会復帰された患者さんよりご寄付いただいたものです。テーマは「生命の水」。デザインには、それぞれ次のような意味と願いが込められています。

①結ばれた母親と子供の手で、永遠に続く生命のつながりを表現しています。また、水色は羊水を、赤色は光を意味し、羊水に (メ)

(メ) 光をあて生命の息吹をはぐくんでいる様子を表現しています。

②「銀杏バッジ」のデザインを用い、医科学研究所が東京大学を構成する施設であることを示しています。

③両手は医科学研究所を、水は医学を意味し、ながれ来る水(医学)をしっかり受けとめて研究・教育を進め、その成果を社会に還元することを表現しています。



1号館1階廊下をサインにしたがって進んでいただき、通り過ぎた先に見えるガラス張りの建物が、医科研病院の診療棟(病院A棟)です。



入院患者さんが利用される病院A棟・各病棟の食堂からは、品川から目黒方面の景色が望むことができ、右手に臨む国立科学博物館附属自然教育園(植物園)の森からは、四季の移ろいを感じることができます。

また、市民医療連携懇談会やクリスマスコンサートなどで一般開放される病院A棟・8階の会議室からは、新宿副都心からレイ (メ)

(メ) ンボーブリッジまで東京の中心部を見渡すことができ、東京タワーとスカイツリーがほぼ一直線に望むことができます。

ご来院時には、白金キャンパス内で医科研の「えん」をみつけてみてください。

循環器内科 診療科長就任のご挨拶

循環器内科 診療科長 武田 憲文



令和7年2月より循環器内科科長を担当いたします武田憲文と申します。着任にあたり、ご挨拶と循環器内科での診療についてご紹介させていただきます。私はこれまで、文京区本郷にある東大病院とその関連病院、米国ペンシルバニア大学などで、循環器専門医としての診療と心血管疾患の分子メカニズムに関する基礎研究を行って参りました。医科学研究所には、医学生の際に約3年間（白金台駅の開業前）、基礎の研究室に通っており、卒業後27年を経て再びお世話になることとなり本当に楽しみにしております。

医科研病院の循環器内科では、高血圧症や虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞など）、弁膜症（大動脈弁狭窄症など）、不整脈（心房細動など）、およびこれらが進行して心機能が低下した状態である心不全などの診療を行います。日本では、社会の高齢化に伴い「心臓が悪いために、息切れやむくみが起こり、だんだん悪くなり、生命を縮める病気」である心不全の患者さんが急増しています。高齢の方では、年齢のせいでも息切れやむくみが起こる場合もありますが、短期間で急激な変化を感じたら心不全かもしれません。心不全は完全には治りませんが、生活習慣の改善と適切な治療を行うことで、次のステージ（病期）に進まないような予防を行うことができます。当院ではカテーテル治療などの侵襲的治療は実施できませんが、正しく診断して新しい心不全治療薬を適切に導入し、身体への負担が少ない低侵襲治療法（カテーテル治療やペースメーカー治療、低侵襲心臓手術MICSなど）を実施可能な東大病院や近隣の医療機関にご紹介するなどの橋渡しを行って参ります。

また、医科研病院では、ご紹介いただいたたくさんのがん患者さんに対して、ロボット手術や従来からの抗がん剤、近年相次いで登場した分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬などを組み合わせた先進的医療が提供されています。がんは長期に生存できる（メ

ス）疾患となり、治癒も期待できるようになった一方で、がん治療の影響で心臓に障害（心毒性）が起きるなど、血栓症を発症する患者さんが増えています。循環器医としては、がん患者さんが循環器疾患を発症することなく、がん治療を完遂してもらいたいと思いますので、周術期の適切な管理は勿論のこと、各診療科と常に連携してがん治療を継続できるように最善を尽くしたいと思っています。

さらに当院では、難病・希少疾患である遺伝性大動脈疾患と筋ジストロフィーに対する循環器専門外来（結合組織病（マルファン）外来・筋ジストロフィー心筋症外来）を開設しています。私は東大病院でマルファン症候群センターのセンター長を兼務しておりますが、マルファン症候群などの遺伝性大動脈疾患では、本人が気づかないうちに、若年で大動脈の拡大（大動脈瘤）が進行し、20～30歳代で破裂（解離）の危険性に晒されている場合が少なくありません。「治る」病気ではありませんが、適切な治療や管理で良好な予後が期待できます。筋ジストロフィーは、全身の筋力が徐々に衰えてしまう筋肉の病気です。最も多い死因は心不全ですので、心筋症に対する適切な治療を早期から開始し、心不全の進行をできるだけ抑えていくことが重要です。いずれの疾患も全身に様々な合併症を併発しますので、かかりつけ医（主治医）とも連携して継続的かつ適切な治療の提供を行って参ります。

最後に、先進的医療の開発・実践と地域医療の向上を目指す、国内唯一の国立大学の研究所附属病院の一員として、東大病院などとの密接な連携のもとに様々な研究を進めながら、患者さんの立場に立った安心・安全な医療の開発と提供を推進していくことにお約束いたします。健康診断などでご心配な点（心雑音や心電図異常など）や循環器疾患の診断や治療に関するご相談などがありましたら、当院循環器内科にお気軽にご来院ください。どうぞよろしくお願いいたします。



◆病院からのお知らせ◆

●臨床検体の取扱いにつきまして

当院での保存・追加採取検体を用いた臨床研究名をお知りになりたい方は

<https://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imsut/jp/research/sample-information.html>をご覧ください。

東京大学医科学研究所附属病院・ご利用案内

診療科

内科（血液腫瘍、感染症、アレルギー・免疫、腫瘍・総合、消化器、循環器）
外科（一般、腫瘍、消化器）、脳腫瘍外科、泌尿器科、関節外科
放射線科、麻酔科、遺伝相談

外来診療日

月曜日～金曜日（祝日および年末年始を除く）

診療受付時間

8：30～11：30（初診・再診）

12：30～16：00（再診のみ）

※予約時間の15分前までに受付にお越しください。

（確実にご受診いただくために、ぜひ予約をお取りください）

予約専用電話（予約受付および変更）

診療：03-5449-5560

検査：03-5449-5355

受付時間 8：30～17：00（外来診療日のみ）

アクセス

- 東京メトロ南北線・都営地下鉄三田線で「白金台駅」下車
- JR 山手線目黒駅東口から都バス品93大井町競馬場行で「白金台駅」下車、あるいは都バス黒77千駄ヶ谷行か橋86新橋駅行で「東大医科研西門下車」、または駅より歩いて約15分、タクシーで約5分（1メーター）
- JR 品川駅から都バス品93目黒駅行で「白金台駅」下車
- 東京メトロ日比谷線広尾駅から都バス広尾橋から黒77または橋86目黒駅行で「東大医科研病院西門」下車

